

冬季アジア札幌大会に大量動員

道内を訪れる外国人客が急増する冬の観光シーズン本番を迎え、料金を取って観光案内できる通訳ガイド(通訳案内士)の不足が著しい。専門的に活動している人がもともと少ない上、今年は2月下旬の冬季アジア札幌大会に多くの通訳が必要で、不足に拍車がかかっている。一般の観光ツアーに対応するガイドが枯渇気味となり、東京から手配するケースも。ガイドには観光知識やとっさの対応力など通訳以外の能力も求められるため、資格を持っていても活動していない人も多く、北海道観光振興機構などは有資格者の掘り起こしに本腰を入れ始めた。

「2月は大会の影響もあり、雪まつりシーズンの手配が追いつかない。東京の通訳ガイドに同行してもらおうツアーも出てくる」。旅行会社などに通訳などの派遣を行うTEI(東京)の札幌支店担当者は困り顔だ。冬季アジア大会やその準備に約70人の通訳ガイドが駆り出され、需要が逼迫しているという。

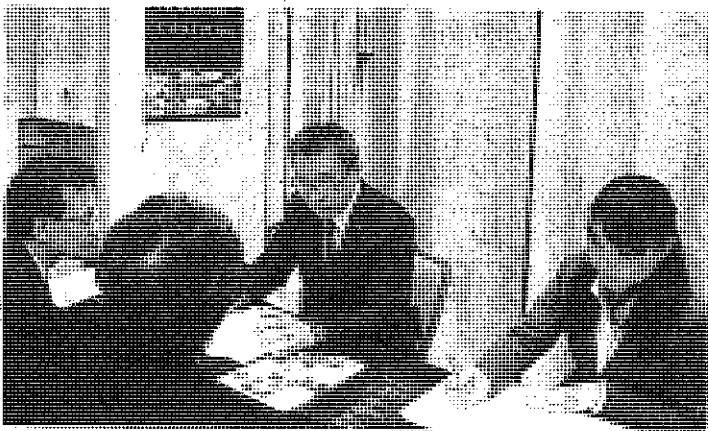
訪日旅行専門のJTBBグローバルマーケティング&トラベル北海道営業所(札幌)も「新規のツアーがこ

れ以上来たら、ガイド確保は厳しい状態」と話す。ガイドは原則フリーで、複数の旅行会社や通訳派遣会社に登録するため、確保は「早い者勝ち」の状況だ。道観光振興機構がまとめた訪日客1万人当たりの通訳ガイドの数は東京が4・63人、大阪2・66人に対し、北海道は0・85人ととまら(2015年4月現在)。

道観光機構 人材発掘へ研修会開催

これらの資格を複数持つ人も多く、専門的に活動しているのは「50人ぐらいでは(関係者)という。最近では長期滞在する個人旅行者も増え、ガイドに求められる条件や資質も変化している。通訳ガイドの育成を手がけるイー・シー・プロ(札幌)の久松伸一社長は「副業として働く人も多く、長期のツアーに対応できないケースもある」と指摘。時間の制約に加え、「観光地の知識はもちろん、ホテルや食事の急な変更

や、トラブルへの対応力も必須」(富裕層向けツアーを扱う札幌の旅行会社幹部)など添乗員並みのスキルが求められることも、不足の背景にあるとみられる。眠っている有資格者の活動を促そうと、道観光振興機構や道は3年前から事業者と有資格者との面談会を毎年開催。さらに本年度はベテラン通訳ガイドを講師に技術を学ぶ実践研修も初めて実施した。同機構の梶川郁子人材育成・サービス向上グループリーダーは「資格を取ってもすぐに仕事を請け負うのは難しい世界。実践的な研修を充実させ裾野を広げたい」と話す。



道などが主催した面談会で、旅行会社の担当者(奥)と顔合わせする通訳ガイド16日、札幌市内

通訳案内士(通訳ガイド) 外国人に付き添い、有償で国内の観光ガイドができる国家資格。英語や中国語、ロシア語など10カ国語から選択でき、年1回試験がある。2016年4月現在の登録者数は全国で延べ2万747人。このほか特例として、道内や札幌市内だけで案内できる地域限定の資格もある。